

第5学年 授業改善推進プラン

	児童の実態から見える 指導方法の課題（重点項目）	具体的な授業改善策	○成果と▲課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○物語文や説明的文章の要旨をとらえられるようにする。 ○漢字や言葉の特徴やきまりを正しく理解させる。 ○丁寧な字を書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面や段落ごとに重要な語句に着目して読み、話の中心を捉えられるようにする。 ・ノート指導の充実を図り、物語の登場人物の気持ちや、文章の要約を自分なりに表現させる。 ・学習した言葉の特徴やきまりを授業の中で繰り返し振り返る。 ・丁寧なノートの紹介をし、丁寧に書こうという意欲をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○重要な語句や言葉の意味やきまりを確認しながら学習を進めることで、話の中心を捉え、正しく理解することにつながった。 ▲丁寧な字を書かせる指導については、児童によって個人差が生まれてしまい、統一した指導が徹底できず課題が残った。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○資料を活用して必要な情報を集めたり、読み取ったりする。 ○資料から考えた特徴や今後の課題を適切に表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書、資料集を活用して資料を読み取るだけでなく、インターネットを使った資料集めや効果的な資料提示を行う。 ・資料を活用し、その特徴や考察をノートやワークシートに書く指導を繰り返し行う。また、それらを比較・関連付け、資料から分かることを全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○電子黒板を活用して資料提示を行ったり、インターネットを利用して資料集めを行ったりしたことは、児童の意欲向上につながった。 ○資料を活用したノート指導を行ったために、資料の読み取りや考察の力が伸びた。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○学習理解の定着を図る。 ○多様な考え方や表現の仕方や捉え方ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別指導で児童の習熟に合った指導を展開する。 ・習熟度をはかるテストを定期的に行い、習熟の度合いを明確にする。 ・問題を解くことだけを指すのではなく、いくつかの方法で問題を解いたり、様々な解き方を説明したりする授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○いくつかの方法で問題を解いたり、様々な解き方を説明したりする授業を展開することで、考える力が伸びた。 ▲習熟度クラスの中でも個人差があり、よりきめ細かい指導を展開しなければいけない。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決学習のプロセスを定着させる。 ○実感を伴った学習活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題、方法、予想、実験（観察）結果、考察という問題解決の流れを明確にした授業を展開する。 ・具体物を用いたり、実験を積極的に行ったりしながら、活動的な学習形態を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体物を用いたり、実験を積極的に行ったりすることで、主体的で活動的な児童が増えた。 ▲繊細な動作が求められる実験では、結果が思うようにならない時もあった。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ○自身の技能の高まりを実感させる。 ○友達と学び合う学習活動を取り入れる。 ○運動への意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能ポイントを明確にし、具体的な声かけや、模範演技を取り入れる。 ・学習カードを活用し、見合い、教え合いの視点を明確にしながら、活動していく。 ・領域の異なる多くの種目を経験させられるような単元計画を立て、実行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○技能のポイントを明確にしたことで、児童同士の声の掛け合いや技能の向上が見られた。 ▲校庭が使えない時期があり、全ての単元が計画通りにはできなかった。
総合	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら調べ進めていこうとする態度を育成する。 ○調べたことを発表したり共有したりする活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童や社会の実態を考慮し、児童の「調べたい」という意欲を高めることができるテーマを設定する。 ・パソコン、模造紙、劇など発表の仕方を多様化したり、学年で交流するなど共有の仕方を工夫したりして、活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童や社会の実態を考慮し、オリンピック・パラリンピックをテーマとしたことは児童の意欲向上につながった。 ○調べ方やまとめ方を多様化することで活動が充実した。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ○価値に迫るために多様な指導法を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が身近に感じることでできるような教材を提示、開発していく。 ・児童への「ゆさぶり」を積極的に取り入れ、話し合いが行われるような授業展開にしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童への「ゆさぶり」を積極的に取り入れることで、話し合いが行われ、主体的・対話的に学ぶ児童が増えた。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語に興味、関心をもたせる。 ○言語や文化について体験的に理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームや話し合い活動を積極的に行い、ただ楽しむのではなく、決められたフレーズやルールに則って行うよう声かけをする。 ・外国語の音声やリズム、日本と外国との生活習慣や行事などの違いを知る機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ゲームや話し合いを多く取り入れ、ALTから正しい発音や言い方を学ぶことで理解を深めることができた。 ▲文化の違いを追究する機会が少なかった。

